

膝蓋腱を用いた前十字靭帯再建の検討と文献的考察

(川崎医学会誌 37 巻 4 号 p 185 ~ 194, 2011)

著者：中村 恭啓

本文中の部分訂正と追加をいたします。

方法

2. 視覚的アナログ尺度 (Visual Analogue Scale ; VAS)

患者の回復、復帰度合いは VAS (10 段階評価) を採用して、患者自身の自己評価とした。評価の目安は、0 が競技種目から引退あるいは種目変更したもの、5 が ADL で困らない程度、6 が軽度の運動が可能で、10 を元の競技レベルに完全に復帰した状態として、自覚的復帰感覚^{7), 10)} を術後 6 カ月経過以降の診察時に 1 から 10 までの Scale で機能訓練士あるいはスポーツ・プログラマーが聴取した。VAS で 5 ~ 7 と VAS で 8 ~ 10 に分けて比較した。

↓

(変更)

2. 口頭式評価スケール (Verbal Rating Scale ; VRS)

患者の回復、復帰度合いの指標として VRS (10 段階評価) を採用して患者自身の自己評価を記録した。評価の目安は、0 が競技種目から引退あるいは種目変更したもの、5 が ADL で困らない程度、6 が軽度の運動が可能で、10 を元の競技レベルに完全に復帰した状態として、自覚的復帰感覚を術後 6 カ月経過以降の診察時に 1 から 10 までの Scale で機能訓練士あるいはスポーツ・プログラマーが聴取した。VRS で 5 ~ 7 と VRS で 8 ~ 10 に分けて比較した。

と変更いたします。また、

以下、VAS と記載部分を VRS に変更いたします。

を追加いたします。

事由

自己評価のデータ採取方法が VAS では不適切との指摘を受け、VRS が適切であることを著者自身が率直に認めたことによります。